

機関名: (地独)北海道立総合研究機構水産研究本部

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	●エゾパフウニが不漁(後志)。	●水温:7月は平年より1～3℃高かった(樺山・留萌・稚内)、8月上旬は2℃高く(樺山・稚内)、中旬以降は平年並み(各地)。 ●石狩湾沿岸で有害ラフィド藻 <i>Chattonella marina</i> (7月)および有害渦鞭毛藻 <i>Cochrodotinium polykrikoides</i> (8-9月)が北海道で初めて出現した。	●ホタテ稚貝の採苗は、付着数が平年の半数以下と大きく下回った(後志岩内)。	●上旬の低気圧の影響により、稚内市では天塩川から流出したと思われる大量の流木が流れ着いた。また、コンブも大量に打ち上げられた。 ●土砂の堆積などによるウニ類、コンブへの影響は、ほとんどないとのことであった。

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	●青森県日本海沿岸の漁獲量は、スルメイカが依然不漁で、前年同期の49%に留まった。	●7月30日、下前沖でユウレイイカが捕獲された。	特になし	特になし

機関名: 秋田県水産振興センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	●イワガキ漁最盛期(7～8月)の身入りが悪く、魚価安や漁獲の自粛により漁獲量が前年の6割(141トン)に留まった。 ●県内の主要な産地における今季の生殖巣指数(GI)は15.08から34.22で推移し、過去の調査による産卵盛期の40から50を大きく下回っていた。 <GIの計算式> GI=(A-B)×100/A A:全体の直径 B:消化盲嚢の直径	●8月上旬に男鹿半島の戸賀湾において、キタムラサキウニの生息が少ない一方で、分布が稀なムラサキウニの繁殖を確認。同時に南方系海藻の紅藻アヤニキを初確認した。	特になし	特になし

機関名: 山形県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 石川県水産総合センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 福井県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	●例年、この時期に定置網や潜水調査時に見られるアイゴ幼魚が、今年は見られていない。	特になし	特になし	特になし

機関名: 兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	特になし	●9月中旬から下旬にかけて有害藻 <i>Cochrodotinium polykrikoides</i> による赤潮が発生した(漁業被害はなかった)。	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	【境港まき網】 ・マジ 当産魚主体に、2003年以降で最高の水揚量(15,400トン)であった。 ・マイワシ 2004年以降で最低の水揚量(75トン)であった。 ・クロマグロ(まぐろ銘柄) 7月の水揚量は326トンで、7月28日に漁期を終了した。	●有害赤潮プランクトン( <i>Cochrodotinium polykrikoides</i> )の接岸による県内への赤潮警報を発生(9月16～24日)した。 ●大山町から琴浦町沿岸にかけて有害赤潮プランクトンの防除作業を実施(9月18～19日)したが、漂着によるアワビ・サザエ等の斃死被害が発生した。	特になし	特になし

機関名: 鳥取県栽培漁業センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	特になし	●有害赤潮(クロロディニウム・ポリクリコイデス)発生。9月18日本県西部海域に漂着、20日まで防除作業を行ったが、一部でアワビ、サザエに被害。漂着前には刺網等で大量に魚が漁獲される現象も見られた。	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	特になし	●全県で有害赤潮プランクトン(クロロディニウム・ポリクリコイデス)発生。9月8日に隠岐の島町北西海域で確認されて以来、出雲部・石見部でも確認。多いところでは1cc当たり数千細胞に達し、一部地域では蓄養中のアワビやサザエ及び天然の巻貝や魚類の斃死を確認。県は9月9日に有害赤潮警報を発生し、全県で警戒調査を実施した。また隠岐島前海域や松江市美保関町笠浦港内等では赤潮防除剤の入来モニタリングの散布を行った。9月25日にはほぼ終息し警報は解除。その後全く確認されなくなったことから10月9日にはモニタリング調査も終了した。	特になし	特になし

機関名: 山口県水産研究センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成26年 7月～9月	特になし	●9月下旬～10月上旬に、有害赤潮(クロロディニウム・ポリクリコイデス)が発生。 ●発生場所は、萩市～阿武町～長門市沿岸。 ●最大密度は1,532個/ml(長門市)。 ●蓄養中のケンサキイカ、アワビ、サザエがへい死。 ●当該赤潮が本県で確認されたのは、平成15年(萩市見島)以来。	●パフウニ、アカウニの漁獲量が激減。 ●昨夏の高水温によるへい死が原因と推測。 ●主たる市場(萩市場、長門市市場)におけるウニの取扱量 ○パフウニ:過去7年平均1.6トンに対し、本年は、7月末時点で0.2トン(13%) ○アカウニ:同じく5.6トンに対し1.2トン(21%)。	特になし